

せるべきレコードはずい分多いにちがいない。

5. 分布図に点が追加された場合

水平分布図上で「ここへ点を打て」という指示が少なくなかった。わざわざ地図上の位置を割り出して指示しなくても、その点に該当する資料の産地、高度、採集者、日付、標本番号などの詳細が付記されていれば、新しいレコードを作ることができておたがいに楽なのだが、しかし互いにまだこういうことに慣れていないものだから、手間のかかるやり方になり勝ちである。多くの場合は、点の付加の指示だけだった。その点をつけ加えないと、分布図に不都合が生ずるのだから、とにかくその位置座標をもつレコードを追加した。このレコードは位置座標と資料種別と植物名以外のデータを持たない。これでは分布図のカッコウはついても、資料リストでは空白となり、数は少ないがたいへんみっともないものになる。しかも資料種別は、ほとんどの場合「標本」である。これもいずれは指示した方に、データの詳細をお伺いせねばならないのである。片方の垂直図上だけでの追加指示は、位置座標さえ決められないので、追加のしょうがなかった。

6. データベースの追加訂正と分布図

前述のとおり、データベースには様々なエラーが含まれている。エラーが発生したことに文句をつけるつもりはない。人の手でデータベースを作るのだから当然の結果で、コンピュータで処理しているからこそ、エラーの発見も訂正もやり易いのである。そこで訂正できるものはたえず訂正してゆく。また新しいレコードも、受け取り次第追加される。だから、執筆者の要求に従って分布図を訂正しても、再出力するときには前とは異なるレコードが含まれている可能性がある。そうすると「前回の分布図と違う」とか、削除したあとに追加データが顔を出して「指示通りに訂正されていない」ということが起こる。これはデータベースが絶えず更新されてゆく結果で、辛抱強くつきあっていただく他はない。植物誌データベースには「これで終わり」ということはないのである。こうやって直して行くと、データベースと標本ラベルとに違いが出てくるので、そちらの方の手当ても考えねばならない。

引用文献

環境庁 1985. 生きもの地図ができました. 96pp.
国土地理院 1995. 日本の市町村位置情報要覧. 358pp.

〔植物ニュース〕

ヒロハヌマガヤ *Diarrhena fauriei* (Hackel)
Ohwi

日本のイネ科では稀品中の稀品（日本イネ科植物図譜 長田武正 1989による）とされるヒロハヌマガヤは、長野県の下伊那郡大鹿村と南佐久郡南相木村、北相木村だけで確認されている貴重種である。

昨年9月24日、上田市誌自然編の植物調査の際に、上田市上室賀の大沢池（標高600m）の道端の林下で1か所に直立した茎が十数本見られた。周辺のくわしい調査はしていないので、ほかにもあるかどうかは不明であるが新産地として報告する。（篠原 修・宮下昇三郎・池田登志男）

〔植物ニュース〕

シナノアキギリ *Salvia koyamae* Makino

シナノアキギリは南佐久郡小海町松原湖畔で小山海太郎（旧制野沢中学校一現野沢北高校教師）によって発見され、長い間、佐久特産とされていたが、その後群馬県側でも発見されている。現在佐久では10か所ほどの自生地が確認されているが、県下では佐久以外からは報告されていない。

昨年5月3日・9月28日の上田市誌自然編の植物調査によって、独鉦山（上田市東塩田）の平井寺コースの標高1000～1100mあたりの数か所に大群落を確認した。佐久では、これほどの群生地は見えていない。（篠原 修・宮下昇三郎・池田登志男）